

# ベトナムから日本へ来る中国人

● 放 眼 日 中 ●



今年、日本へやって来る中国人は500万人を上回るといわれている。倍々ゲームのようで、数年前からすれば何とも驚くほかない状況だ。日本側でも、ホテルやバスが足りないといった、受け入れ態勢に問題が生じてきており、日本国内を日本人が旅する際も、ホテルの予約が取れない、料金が非常に高いなどの不満が聞かれ始めている。

「中国の連休に注意する必要がある」「桜、紅葉、雪など、季節ごとの対応が必要だ」といわれるほど、その影響力は我々の周囲でも確実に増してきている。

最近、北京や上海からやって来る中国人の友人、そして中国に住む日本人の知り合いからも「飛行機代が高くなり過ぎた」と悲鳴が聞かれる。「3日前に出張が決まり、急ぎ予約したところ、エコノミークラスを

何とか予約できたが、料金は8000元(約16万円)だった」とか、10月の国慶節休みに日本に戻ろうとしたら、2万円(約40万円)なら席が確保できるといわれ、仕方なくタイ旅行に切り替えた、などの話がどんどん出てくる。

筆者が北京に滞在していた5、6年前は、JALやANAでも5000元程度(当時の為替レートで約6万円)で往復できたから、隔世の感がある。もちろん、料金変動の大きな要因は円安ではあるが、併せて相当の需要増加が料金を上乗せしている。ただ、実はこの話は中国で日本行きチケットを発売した場合であり、もし同じルートで東京発で購入するとグッと安くなるのは不思議な現象である。

ある旅行会社によれば「これは航空会社の政策」だとはつきり言い「昔

は日本人から高い料金を取ろうとしていたが、今や中国人の方がお金を払うようになっていて」と説明する。実はこの傾向は中国だけではなく、タイでも経験している。今やアジアの方が日本より金払いがいいのである。

先日、成田からハノイまでベトナム航空に乗ってみた。このエアラインは格安航空会社に対抗して、かなりの低料金でチケットを販売している。おかげで、チェックインカウンターは満員で、長蛇の列。その待っている人々を眺めていると、あることに気が付いた。もちろん日本人、そして最近増えたベトナム人もそれなりに乗っているのだが、いかにも中国人と思える観光客が炊飯器や便座を持って並んでいるのである。

ちょっと聞いてみると、東京からハノイ経由で、広州に帰る中国人だ

った。「直行便は高いと言われ、比較的地理的に近い経由便としてベトナムを選んだ」のだという。実はタイ人も結構乗っており、これも同じ理由で、ハノイ経由でバンコクに帰るのだという。今や中国人やタイ人の動向は、2国間だけの問題ではなく、このような形で広がってきている。

そんな中で、存在感がどんどん薄れてきているのが日本人。旅行に行っても買物額は少なく、飛行機代もホテル代もそれほど出さない人々。残念ながら、日本人旅行者は「マナーはいいが、金にはならない」というイメージになりつつある。最近はい系航空会社といえども、お金のない日本人は自社の設立した格安航空会社に誘導する時代になってきていることを、当の日本人も認識すべきであろう。



コラムニスト・アジアソウオッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。